

本号のテーマ：「1 学期の成長」

先月、学校訪問させていただいた、ある小学校の 1 年生の教室でこんな声が聞こえてきました。

A さん 「先生、C さんがドンって机にぶつかってきて、いやな思いをした」

B 君 「そんな時は“ごめんね”しなくちゃだめだよ」

C さん 「したよ」

D 君 「言い方が大切だよ」

C さん 「・・・。ごめんね」

A さん 「いいよ」

先生に助けを求めた A さんでしたが、まわりのお友達が瞬時に解決してくれました。自分の気持ちを伝える姿、お友達の声に耳を傾ける姿、解決しようとする姿、素直にアドバイスを受け入れる姿、短いやり取りの中にたくさんの成長を感じた場面でした。

4 月にはぴかぴかの 1 年生でしたが、1 学期の終わりには、信頼関係をしっかりと築き、きらきら輝く成長した 1 年生を見ることができました。

どの学年も、どの子どもたちも、4 月の新しい環境の中で新学年がスタートし、1 学期を一生懸命過ごしました。成長の歩幅はそれぞれ違うかもしれませんが、親として子どもの成長に目を向け、認めることは大切なことだと思います。一緒に 1 学期を振り返り、たくさん言葉を交わす夏休みにしたいと思います。

ラジオ体操や盆踊り大会・花火大会・資源回収など、地域の皆さんにご協力をいただきながら、夏休みならではの経験をたくさん楽しみましょう。くれぐれも水の事故や交通事故などにはご注意ください。

「教育委員会の動きなど」

1 佐久市立近代美術館 特別企画展

「美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」

子どもが小さい時、特に意識して集めたわけではないのですが、絵本や食器・おもちゃ・衣類など様々なところにミッフィー（うさこちゃん）がいて、子育てを楽しくしてくれた思い出があります。そんな世界中で愛され続けているミッフィーの生みの親ディック・ブルーナの作品が、この夏、佐久市立近代美術館にやってきました。

「美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」。1997年に出版された絵本『うさこちゃんびじゅつかんへいく』のお話に沿って、うさこちゃん家族と一緒に美術館をまるごと楽しむ特別企画展です。うさこちゃん



の素朴な絵本の言葉と、佐久市立近代美術館の所蔵作品とのコラボレーションで、楽しく美術館の魅力に触れることができます。

ブルーナは、若いころ、美術館や画廊から様々な影響を受けて、アーティストの道を歩むことを決めたそうです。実際に見て感じた経験が、生涯にわたりアーティストとしてのたくさんの作品を生み出す原動力の一つになったのでしょうか。子どもたちにもたくさんの経験をして欲しいと願います。子どもたちには自分の将来の選択をする場面が何度かやってきます。そんな時に、たくさんの経験を積んでいることで、将来の地図がより大きく描ける手助けになるのではないかと思います。

この特別企画展の開会式には、手作りのうさぎの耳を付けた小雀保育園のばら組さんが、テープカットのお手伝いをしてくれたり、元気な歌声を聴かせてくれたりしました。普段の静寂に包まれた美術館も勿論素敵ですが、子どもたちの声が響く美術館も素敵でした。今年の夏は、プールや駒場公園で遊んだ後に、気軽に美術館にお立ち寄り下さい。信州ミュージアム・ネットワーク事業「信州とあそぼ！ミュージアムスタンプラリー2017」に参加しており、中学生以下の観覧は無料です。8月31日まで開催しています。

2 佐久市ふるさと創生人材育成事業 中学生海外研修 壮行会

佐久市では、「ふるさと創生人材育成事業」として中学生の海外研修を実施しています。研修先は、エストニア共和国サク市（7/29～8/5）と、モンゴル国ウランバートル市スフバートル区（7/31～8/7）です。



エストニア共和国へは今回が初めての研修となり、飛行時間は約13時間、バルト三国の北の国です。両国への研修生16名は7回にわたる事前学習を行い、「研修にかける思い」を発表してくれました。「海外研修に挑戦することで、自分を変えたい」、「コミュニケーション能力を試したい」、「日本の良さを海外に伝えたい」等、期待と不安が入り混じる中、しっかりと思いを伝えてくれました。

柳田市長の「敬意をもって訪問して下さい」という言葉を胸に、実り多き研修となることを願います。